

別添9 事後評価分析書

港湾名	八戸港	地区名	河原木地区	事業主体	青森県	八戸市
計画期間	平成21年度～平成25年度					

1)事業の実施状況	当初計画通り実施した事業	平成21年度に、港湾環境施設整備事業(緑地、緑地(休憩所)、用地)のうち、用地の測量・地質調査N=1式を実施 平成21年度に、みなとの賑わい・交流づくり支援事業、社会実験N=1式を実施
	当初計画から変更した事業 (変更した内容)	—
	変更した理由、目標、数値指標への影響等	—

2)みなと振興計画に記載した数値目標の達成状況	指標		単位	達成度	達成見込みの有無			効果発現要因 総合所見
	指標1	指標2			達成	達成見込み	未達成	
	指標1	(港内遊覧船利用者数)	9.2	千人/年	×			● 港内遊覧船利用者数は、H21:9.4千人からH22:12.5千人と増加傾向にあったが、H23の東日本大震災による運休、その後H24に再開した。しかし、それ以降も年々減少が続き、目標年度H26の実績は目標値の56%である5.1千人となった。 主な要因は東日本大震災の津波による観光客等の海離れが進んだこと、また、基幹事業である緑地、緑地(休憩所)、(緑地の)用地がまだ未完成であることも要因の一つと考えられる。 平成27年度現時点では、基幹事業の完成は平成28年度以降となっているが、完成後には緑地利用者等による港湾遊覧船利用者数の増加が見込まれ、減少傾向が改善されるものと考えている。
	指標2	(八戸市水産科学館入場者数)	45.0	千人/年	○	●		H19以降入場者数は増加傾向が続き、目標年度H26の実績は目標値45千人の約160%である72千人に達し目標値を大きく上回った。要因としては、八戸市の観光入込客数の増加や、提案事業による情報提供施設による効果、また、指定管理者による当該施設での集客イベントの実施等が考えられる。
	指標3							

3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)の効果発現状況	指標		単位	達成度	達成見込みの有無			効果発現要因 総合所見
	その他の指標1	その他の指標2			達成	達成見込み	未達成	
	その他の指標1		割合					
	その他の指標2		%					
	その他の指標3		割合					

4)定量的に表現できない定性的な効果発現状況	提案事業で実施した情報提供施設の整備では、周辺観光施設案内図N=7基、誘導板N=2基を整備したが、案内図では、「みどころ」として、多くの市民や観光客が訪れる湊日曜朝市、天然記念物である蕪島、天然芝生が波打ち際まで広がる種差海岸など、八戸港における観光資源への誘客が促進された。また、公共交通機関であるJR八戸線陸奥湊駅から、みなとオアシス八戸(館鼻岸壁)までの誘導板の設置によって、八戸市の観光資源である湊日曜朝市への適切な案内が可能となり、みなとの賑わい・交流づくりの支援となった。
------------------------	--

- 注
- みなと振興計画の申請時に策定した目標及び指標について記載する。
 - 達成度とは、以下の評価の基準に沿って、記入する。
評価値が目標値を上回った場合は「○」
評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合「△」
評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合「×」
 - 数値目標を達成している(評価値が目標値を上回った)場合は、「達成」に●
現時点で数値目標を達成していない(達成度が△もしくは×)が、その要因が外部要因によるものが大きいことが合理的かつ客観的に確認され、1～2年以内に所要の目標が達成される見込みがある場合は、「達成見込み」に●
上記以外は、「未達成」に●

みなと振興計画の目標及び計画期間

港湾名	八戸港	地区名	かわらき 河原木地区	計画期間	平成 21 年度 ~ 平成 25 年度
-----	-----	-----	---------------	------	---------------------

事業主体	青森県	青森県八戸市
------	-----	--------

計画名称	八戸港みなとの賑わい・交流づくり支援事業
------	----------------------

目標 平成26年 3月

八戸港において親水空間が不足しているうえ、周辺には数多くの魅力ある観光資源(施設)が存在しているものの、それらは点在しているため資源間の繋がり(アクセス等)が不十分という課題を抱えている。

このため、観光遊覧船の発着場が存在し、JR本八戸駅や中心市街地へ近接した河原木地区(沼館)へ緑地を整備することにより隣接する大型商業施設群と一体的な親水空間を創出し、河原木地区(沼館)を起点にした周辺観光資源を結ぶ海陸連携した観光ルートの形成し、みなとの賑わい向上を図る。また、各観光資源(施設)へ案内板などの情報提供施設の設置による各観光資源(施設)への誘客を促進するとともに、他の取組みとの相乗効果によって八戸市への観光客の増加を目指すものである。

目標設定の根拠

みなと振興の経緯及び現況

八戸港における観光資源は、平成18年7月に「みなとオアシス」として認定された八戸市水産科学館(マリエント)を中心とする鮫地区と、多くの観光客が訪れる日曜朝市が開催される館鼻地区がある。さらには、八戸港東端に位置する天然記念物ウミネコの繁殖地である蕪島、その蕪島から南に延びる延長12kmに及ぶ荒波の浸食により形成された海食崖、広大な砂浜や自然の芝生が自生する芝原などの変化に富んだ独特の景観を形成する種差海岸なども存在している。

また、八戸港内を遊覧する船の発着場である河原木地区(沼館)においては、平成18年12月に港湾緑地が完成し、平成10年3月に総合商業施設「ピアドゥ」がオープン、さらに、平成21年春には都市再開発によって新たなエンターテインメント施設が営業を開始する予定となっている。

その他、平成19年3月に策定された第5次八戸市総合計画においては、観光施策として「フィールドミュージアム八戸」構想を掲げている。その中で八戸港及びその周辺の観光資源に関わるものとしては、「渚ミュージアム」、「食彩ミュージアム」、「産業ミュージアム」があり、港や海の魅力を活用した観光振興に取り組んでいる。

さらには、今後北海道までの延伸が予定されている東北新幹線を見据えたうえで北海道の魅力を上回る観光地を目指し、青森市、十和田市、八戸市が中心になって、「新たな青森の旅・十和田湖広域観光圏整備計画(仮称)」の検討も進められている。

課題

八戸港周辺に存在する観光資源(施設)は点在しており、これらを結ぶアクセスが不十分であることから賑わい空間の連携を図るため、中心市街地、観光資源間の明確な移動手段を提供する必要がある。

港内遊覧船の発着場で親水空間となる河原木地区(沼館)は、港湾緑地があり、その周辺には大型ショッピングセンターを核とした商業施設が立地している。さらに、平成21年春にはエンターテインメントを中心とした商業施設群の立地も予定されている。

しかしながら、隣接する臨港地区は緑地等が未整備となっているため親水空間としての機能を発揮していない状況である。そのために周辺と調和した環境を整える必要がある。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性		目標値	
			従前値	基準年度	目標年度	
港内遊覧船利用者数	人	県発表の観光統計(人/年)	7,869人	H19	9,200人	H26
八戸市水産科学館入場者	人	市発表の入場者数(人/年)	43,833人	H19	45,000人	H26

八戸港河原木地区(青森県八戸市) 「八戸港 みなとの賑わい・交流づくり支援事業」

計画の概要
 八戸港において、親水空間を創出するとともに親水空間と周辺観光資源が連携した観光エリアを形成し、みなとの賑わい向上を図る。
 基幹事業では、観光遊覧船の発着場が存在し、JR駅や中心市街地へ近接した河原木地区(沼館)へ緑地を整備し隣接する大型商業施設群と一体的な親水空間を創出する。提案事業としては親水空間の魅力向上のため、河原木地区(沼館)を起点とした周辺観光資源を結ぶ海陸連携した観光ルートの形成を目指し海上バス運航等の社会実験を行う。

目標	● 背後商業施設と連携した緑地整備による親水空間の創出	代表的な指標	港内遊覧船利用者数 (人/年)	7,869 (H19年度)	→	9,200 (H26年度)
	● 海陸観光ルートの連携による観光入込客数の増加		八戸市水産科学館入場者数 (人/年)	43,833 (H19年度)	→	45,000 (H26年度)

